

「タンポポ調査近畿 2010」 発足準備学習会

「タンポポ調査近畿 2010」に向けてー雑種タンポポの現状を探る」

写真記録（香月利明）

日時 2008年1月19日（土） 13:30～17:00

場所 大阪市立総合学習センター
（大阪市北区 大阪駅前第2ビル）

主催 「タンポポ調査近畿 2010」準備委員会
（代表 布谷知夫 事務局 大阪自然環境保全協会）

受付



会場



司会 高畠耕一郎事務局

参加者（約 50 名）



挨拶 布谷知夫代表

05 結果説明 木村進事務局





講演

「雑種性タンポポの研究：最近の進捗」

農業環境技術研究所 主任研究員 芝池博幸氏

今日のはなし
— 時間の許す限り、洗いざらいはなします! —

- 認識手法の確立
 - 4つの角度から解析
 - 身近な生きもの調査の結果より
- 環境指標性の再確認
 - 新しい認識手法に基づく分類と生育環境の対応
- 分布拡大様式の把握
 - 分布拡大の様子とその背景となる生理生態的特性
 - オキタンポポの場合
 - いつ頃から増えはじめたのか?
- その他(かゆいところに手が届けば...)

- 雄核準為生殖雑種の正体は?
- 雑種個体の遺伝的特性、戻し交雑の可能性など
- ヨーロッパの2倍体と3倍体の混生集団
- 雑種性タンポポに名前を付けましょう!



おわりに
— 「タンポポ調査近畿2010」へのエール —

- 全国規模の市民調査に
 - 環境省・総務省の国勢調査(身近な生きもの調査)の「タンポポ調査」が中断あるいは中止
 - 現状では、最大規模のタンポポ調査 → 継続・発展してほしい
- 世界に発信するタンポポ調査
 - タンポポを素材に、外来種問題を国民に浸透させることができる
 - 植物では、世界に類例のない調査?
- タンポポ研究の成果を継承
 - タンポポ研究者(団塊の世代)が定年を迎えようとしている
 - 彼らの経験・知恵の受け皿が必要ではないか